

# 令和7年度 授業改善推進プラン（音楽科・美術科）

## 1 学校全体の取組

- 研究テーマ  
学び合い、教え合い、高め合う集団の育成 ～対話的な学びの充実を目指して～
- 研究仮説  
心理的安全性の視点に基づいた学級経営・集団の育成を図り、それを基にした学び合い・教え合いの活動を取り入れた  
授業を行うことで、生徒の対話的な学びが充実し、新たな視点・価値観を見出すことができるようになる。
- 協調学習について  
研究テーマの実現を目指し、その仕掛けとして「協調学習」を推進しています。  
協調学習：一人ひとりの生徒が自らの頭で考え、仲間と考えを比較吟味し、より適切な答えをつくっていく学習スタイル。

## ★田中 悦子

### 2 全体アンケートからみる研究テーマに対する教科の成果

アンケートでは「友達と話し合うことで、じっくり考えることができ、考えは一つではないと気付いたことがある。」の質問に92%の生徒が肯定回答をしていた。音楽科では、生徒一人一人の、楽曲に対する技能の向上や表現方法をグループで共有し、さらに高め合うことにより、最終的には全体を高めることができた。

- ・
- ・

### 3 全体アンケートからみる研究テーマに対する教科の課題

「考えを話し合うことは好きだ」という質問では否定回答をした生徒は32%に当たる。音楽科では、楽曲の演奏練習の過程でのみ、話し合い活動を取り入れている。スモールステップで演奏練習以外でも話し合い活動を取り入れ、抵抗感なく、人間関係も円滑になるような授業ができるようにしたい。

- ・
- ・

### 4 課題に関する分析（児童・生徒の実態含む）

話し合い活動では、意見を多く言ったり、大きい声で言ったりする生徒の意見になびく傾向にある。

### 5 課題を改善するためのより具体的な手だて

どの生徒も話し合いの授業では、大いに意見が言えるような人間関係づくりをしたい。グループでの話し合いでは、司会をはじめ役割分担を工夫し、より多様な意見交換ができるようにしたい。

## ★大下 春美佳

### 2 全体アンケートからみる研究テーマに対する教科の成果

学校生活に関するアンケートにおいて「友だちと話し合うことで、じっくり考えることができ、考えは一つではないと気づいたことがある。」において、肯定が全体92%に対して、協調学習を行った1年生では学年全体で92%だった。このことから、生徒一人一人の見方や感じ方を大切にしながら、美術ならではの造形的な見方や感じ方から作品を捉えていく力が身につけてきている。

### 3 全体アンケートからみる研究テーマに対する教科の課題

学校生活に関するアンケートにおいて「友達の考えを聞くと、新しいことに気づいたり、別の考えが浮かんだりして、面白いと思う。」において肯定が全体84%に対して、協調学習を行った1年生では学年全体で77%だった。このことから、他の生徒との対話を通してそれぞれの生徒の思いや考えを聞き、生徒の見方や感じ方を広げていく力が乏しく、今後、鑑賞の授業だけでなく、作品のアイデア段階から、協調学習を取り入れる必要性を感じた。

### 4 課題に関する分析（児童・生徒の実態含む）

一学期の授業では、作品の完成後にお互いの作品を鑑賞し、作品を振り返る時間を確保しながら、他者の作品に触れる機会をどの学年でも時間を設けていたが、アイデアスケッチの段階から他者のアイデアに触れる機会がなく、自分の考えだけを頼りにイメージを広げていた。新しいことに気づいたり、別の考えが浮かんだりする機会を設定する必要がある。

### 5 課題を改善するためのより具体的な手だて

美術の授業の中で協働学習を取り入れる際には、生徒一人一人が見方や感じ方を大切にしながら、美術ならではの造形的な見方や感じ方から作品を捉えていき、さらに他の生徒との対話を通して、それぞれの生徒の思いや考えを聞き、生徒の見方や感じ方を広げていくことを意識する必要がある。作品のアイデア段階から、協調学習を取り入れるために、制作する作品に関連した美術作品を鑑賞し、見方や感じ方を広げたのちに、アイデアスケッチを行い、そこでも、他者と一緒にアイデアを練る時間を設ける。